

2011 年度報告書（研究員）

氏 名	網中 奈美江
職 位	グローバル COE 研究員
研究概要	
<p>2011 年度の研究活動の中心は、GCOE 次世代ユニット研究「原発事故による『風評被害』農産物の流通をめぐる受苦（パトス）の共有」である。この研究では、福島第一原発事故後の「風評被害」によって販売が困難になった農産物の関係者（生産者・流通業者・消費者など）が「顔の見える関係」の中でどのように苦しみを共有したのかを明らかにすることを目的とした。フィールド調査の対象は、農産物の「風評被害対策直売会」の関係者ならびに関東産の有機農産物の「産消提携」の生産者と消費者であり、計 82 名に聞き取りを行った（調査は 4 月、8 月、10 月、11 月、12 月に実施）。この研究の成果については 2012 年 2 月の GCOE の研究成果報告会で報告を行った。また、3 月 30 日の日本農業経済学会でも発表予定である。なお、本研究の 2011 年 4 月までの調査結果と分析は『農業と経済』誌 2011 年 6 月号に「被災地支援セールに駆けつけた消費者たち—直売会での聞き取り結果から」として掲載された。全体の研究結果は投稿論文として作成中であり、2012 年度の初めに投稿予定である。</p> <p>その他の研究活動としては、昨年に引き続き GCOE のコアプロジェクトであるコミュニティ研究会に参加している。この研究会においては、日本の CSA（Community Supported Agriculture）について書籍の執筆分担者となっているため、8 月と 10 月に調査を行い 2012 年 2 月に調査報告を行った。こちらも 2012 年度にかけて原稿完成を目指す予定である。</p> <p>また、2011 年度に出版されたそれ以外の成果物としては、日本の担い手・農地政策を中心とする農業政策の研究動向の分析や、書評などがある。</p>	
業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）	
<p>報告「原発事故による『風評被害』農産物の流通をめぐる受苦（パトス）の共有」 GCOE2011 年度研究成果報告会，2012 年 2 月 18 日</p> <p>「放射能汚染の可能性がある農産物の購入をめぐる倫理的決断——『物語的思考形態』という視点から——」日本農業経済学会，2012 年 3 月 30 日</p>	
その他	
<p>書評 櫻井清一編著「直売型農業・農産物流通の国際比較」『農業と経済』第 77 巻 7 号，昭和堂，2011 年 6 月。</p> <p>記事 「被災地支援セールに駆けつけた消費者たち—直売会での聞き取り結果から」『農業と経済』第 77 巻第 9 号，昭和堂，2011 年 9 月。</p> <p>研究動向分析 「研究動向 担い手・農地政策 戸別所得補償制度とその影響を中心に」『農業と経済』第 78 巻，第 3 号，昭和堂，2012 年 3 月。</p>	

